

「東京スカイツリー®」個人向け入場券の
インターネット販売を受託

公益社団法人日本プロサッカーリーグと
「リーグオフィシャルチケッティングパートナー」契約に
基本合意



©J.league Photos

ぴあ

株主の皆様へ

2011年度のご報告

2011.4.1→2012.3.31

ぴあ株式会社



©J.league Photos

TEAM
SMILE

明日をつくる笑顔をつくる。
今こそ、エンタテインメントの力を。

MESSAGE

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ぴあグループの2011年度決算をご報告するにあたり、ひとことご挨拶を申し上げます。

まずは、昨年3月に発生しました東日本大震災にて被災された皆様に、改めて心からお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。ぴあグループでは昨年4月に、子どもの事業領域でもあるエンタテインメントを通じて被災地の復興を支援するプロジェクト「TEAM SMILE」をスタートさせましたが、今後も引き続き、様々な支援活動を継続してまいります。

ぴあグループの当連結会計年度におきましては、4期ぶりに連結黒字化を達成した昨年度に引き続き、お陰さまで2期連続の黒字を達成することができました。東日本大震災によるレジャー・エンタテインメント市場への影響もあり、メディア・コンテンツ事業においては厳しい結果となりましたが、一方、主力であるライブ・エンタテインメント関連事業におきましては、収益構造の盤石化が図られ、さらに下期には大型興行のチケット販売が相次ぎ、過去最高の連結売上高を計上するとともに、経常利益も昨年度に比して大幅な増加となりました。

これを踏まえ、当社では2012年度を初年度とする新たな中期事業計画(3カ年)を策定いたしました。中

長期的成長への対応を進めつつ、連単安定黒字基盤の確立に向け、役員・社員一丸となってさらなる経営努力を積み重ねてまいります。また、当社にとって今年は、1972年の情報誌「ぴあ」創刊以来、創業40周年の節目の年にあたります。『ひとりひとりが生き生きと』の企業理念のもと、様々なイノベーションに取り組んでまいりたいと思っております。加えて、これまで当社グループの企業価値向上を支援して下さってきた多数の株主の皆様に感謝の気持ちを込め、創業40周年記念配当(1株あたり3円)を実施させていただきました。2期連続黒字化を達成したことを背景にした、8年ぶりの復配となります。

末筆ではございますが、この場をお借りして改めて御礼を申し上げますとともに、株主の皆様におかれましては、引き続き温かいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長

矢内 廣

VISION <対談>

はじめて遊びがあった



矢内 廣

Hiroshi Yanai

ぴあ株式会社
代表取締役社長

渡邊 美佐

Misa Watanabe

株式会社渡辺プロダクション
名誉会長

プロフィール

横浜市生まれ。1955年、夫の渡邊晋と共に渡辺プロダクションを設立。以来、日本のショービジネスのリーダーとして活躍する。現在は渡辺プロダクションを中心とする十社一財団からなる渡辺プロダクショングループの代表を務める。

1991年 国際音楽産業見本市(MIDEM)25周年に際し、世界音楽文化功労賞受賞

1996年 ミデム・オーガニゼーションより、永年の貢献に対し個人表彰される。同時にフランス政府より「芸術文化勲章シュヴァリエ」受章

2004年 フランス政府より「芸術文化勲章オフィシエ」受章。同時にカンヌ市より「パルムドール賞」受賞

ぴあ創業40周年を迎えるにあたって

矢内:このたび、渡邊美佐名誉会長にはぴあの企業理念をまとめた冊子「ぴあアイデンティティ(以下「PI」と略)」にある『はじめて遊びがあった』という言葉

を揮毫していただきたい、と無理を承知でお願いしました。もう何年も前、一般財団法人渡辺音楽文化フォーラムの理事会でオフィスにお伺いした際、額に入った会長の書と出会ったのが最初です。

当社は今年、創業40周年という節目の年にあたりますので、何か記念になることができればと思っていました。昨年1月に新しいビルに移転した際、情報誌「ぴあ」の表紙を描いて下さっていた及川正通先生のイラストをエントランスに飾らせていただいたのですが、一方で、どなたかにPIの言葉を書にしていだけないものかと漠然と考えていました。年が明け、誰にお願いするのがよいかと本気で考え始めましたが、我々はエンタテインメントの仕事をしておりますので、どう考えても、その業界の方をお願いするのがよいだろうと。そう思った途端、会長のことを思い出しました。折しも会長が出品されていた「雍容苑書作展」でご本人の素晴らしい作品の数々を拝見し、これはもうお願いするしかないと思いました。故・渡邊晋社長には、「チケットぴあ」スタートの際にも本当にお世話になりましたから、会長に書いていただけたら、こんなに嬉しいことはありません。

渡邊:矢内社長のお目にとまって本当に光栄ですし、逆にお恥ずかしい限りでございます。

日常を忘れて集中できる書の魅力

矢内:会長は女流書家の矢萩春恵先生に師事されていらっしゃるようですが、書展を拝見すると、皆さん書風が異なるものを書かれていて驚きました。通常は一人の先生につくと、その先生の型、つまり一つのスタイルに倣って書

くものだと思っていたものですから、僕にはとても新鮮でした。

渡邊:矢萩先生からは、型にはまることのない様々なスタイルの書を学んでおります。5種類以上あるでしょうか。先生は大変お忙しい方なのですが、ひとりひ

とりに丁寧に教えて下さいませ。

自分の書き文字には少し癖もあって、かねてからずっと書を学びたいという気持ちはございました。芳名録に書く自分の名前くらいきちんと書けるようになれば、と思っておりました矢先、偶然に矢萩先生とお会いする機会があり、書を習いたいのですがとご相談したところ、私の教室にいらっしやいと仰って下さいました。それがきっかけで書を始めて、もう10年が経ちました。

矢内:もう今は筆を手にしないとどこか落ち着かないんじゃないですか。

渡邊:そんなことはございませんが、ことあるごとにふと書きたいなという思いにはなります。白い紙を前にして座ると、背筋が伸びて気持ちが引き締まりますし、書いている間は日常を忘れて集中できます。お手紙でもやはり手書きのものは気持ちも伝わりますし。

矢内:実は亡くなった僕の親父は田舎の書道家でした。サラリーマンをしていたんですが、帰ってくると毎晩筆を持っていましたね。親父のために、お袋が夕方から丼一杯の墨をするのですが、冬の寒い日でも気付くと額に汗をして書いている。それだけ集中していたんだと思います。そうして僕も子供の頃から墨の匂いの中で暮らしていましたので、書の世界には少なからず馴染みがあるのです。

渡邊:墨の匂いというのは本当に良いものですね。

「晋五訓」と「ぴあアイデンティティ」 ～創業時の思いを言葉に託して～

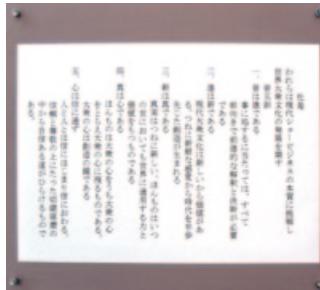
矢内:PIには、当社の企業理念である『ひとりひとりが生き生きと』や、『私たちの方法論はクリエイティブ』などいくつか代表的な言葉がありまして、以前の言葉が好きかという社内アンケートを実施したところ、一番人気を集めたのが、今回、会長に揮毫をお願いした『はじめに遊びがあった』でした。僕は遊びというのは色々なアイデアの原点だと思っています。遊びの延長で学ぶ、遊びの延長で仕事をする。“遊び”と“学び”と“仕事”の3つのベン図が重なったところが一番面白い。エンタテインメントの世界で仕事をしようとしたら、それはど真ん中です。

渡邊:どの言葉も本当に素敵ですね。これを拝見したら、ますます私が書いてよろしいのかしらとプレッシャーを感じてしまいました。実は渡辺プロダクションにも「晋五訓」という理念があります。渡邊晋社長の思いを言葉に残したもののなのです。

矢内:当時の晋社長もこういうものを残されていたんですね。私は初めて拝見しました。

渡邊:これは1970年に定めたものですが、会社が大きくなるにつれ、社員の数も増えてきて、そうなるとむしろ、創業時の大切な考えや気持ちが薄まっていくということがあります。それを言葉に託して残したい、伝えたいという思いがあったのでしょう。大いなる自信と誇りを持って目標に向かうことも大切ですが、同時に、自信が過信や自惚れにならぬよう、それを肝に銘じ戒めながら進んでいくことが大事です。そこからまた新たなスタートを切りたい、やり直したいという気持ちもありました。お陰さまで、今では娘たちがその意を継いでくれています。

矢内:創設から7年ということですが、私も選考委員としてお手伝いさせていただいている一般財団法人渡辺音楽文化フォーラムの「渡辺晋賞」は、エンタテインメント業界における新しい感性のプロデューサーを顕彰する、というこれまでにない日本初の取り組みで、とても素晴らしいものだと思います。賞そのものが渡辺プロダクションの理念と言いますか、エンタテインメント産業の基礎を築かれた晋社長の思いが、まさに次の新しい世代へと受け継



株式会社渡辺プロダクションの社是「晋五訓」。「一. 晋は進である 二. 進は新である 三. 新は真である 四. 真は心である 五. 心は信に通ず」と書かれている。

がれているということだと思います。

渡邊:そうですね。いわば、晋社長のアイデンティティです。

矢内:私たちがこのPIを作ろうと考えたのは、あるショッキングな出来事がきっかけでした。1995年頃でしたか、21世紀のぴあの戦略を作ろうとした最初のプロジェクトミーティングで僕が主旨を説明したところ、メンバーの1人が「私たちがどんなに良い戦略を考えても、実現は難しいと思います」と言い出しました。「昔と違って、今の社員たちは熱を失っている」と言うのです。創業以来、僕はずっと前ばかり見て走ってきて後ろを振り返る余裕もありませんでした。彼らの言うことを耳を澄まして聞いてみると、思い当たるふしがないわけではありませんでした。事業が拡大し、社員数も増え、隣の部署が何をしているかわからないし、会社の進んでいる方向もわからなくなってしまったというわけです。ならば、企業理念を言語化すべきだという結論になり、急遽、プロジェクトの目的を企業理念作りに変更しました。そのようにして、借り物ではなく、自分たちの経験から生み出されてきた言葉を紡いで作ったのが、このPIです。

渡邊:なるほど。そう思っで見直すとこのPIはさらに素晴らしいです。社員の方が矢内社長に進言なさったというのは、社長にとってはとても嬉しいことでしょうし、それだけ社員の方との間できちんと会話ができいらしたということなのだと思います。

矢内:率直に全社が病んでいる状況を進言してくれたその時の社員たちにはとても感謝しています。

渡邊:先ほど矢内社長が、前に進むことばかりを考えていらしたと仰いました。それは我社でも同じだったと思います。晋社長は次から次へと止まることを知らない、とてもエネルギッシュな人でしたから。

いま、エンタテインメントができること

矢内:当社では、昨年3月11日の東日本大震災以降、社内有志の呼びかけにより発足したプロジェクト「TEAM SMILE」の活動を行なっています。被災地の人々がこれから生きていくためには笑顔や元気になれるエンタテインメントが必要なはずで、そのエンタテインメントを通じて被災地を支援しようという取り組みです。収益の寄付だけでなく、チャリティコンサートの開催、オリジナルバッジの配布などもしています。私は福島県いわき市の出身ですので、震災は他人事ではありません。実家も被災しましたし、原発の問題も含めて復興は長期戦だと思っています。こうしたプロジェクトを通して、継続

的に支援活動を行なっていきたいと考えています。

渡邊:素晴らしい取り組みですね。震災当日、長女の渡辺ミキは、地下鉄の駅から溢れ出た人たちが表参道の街で震えながら地面に座っている姿を見て、これは大変だと、真っ先に事務所の人たちとライブ会場を一時避難所として開放しまして100名以上の方にご利用いただきました。そして、すぐに震災



プロジェクトも立ち上げ、そうした行動をきっかけに、所属タレントであるネプチューンらも何度となく被災地を訪問するなど、今も継続して支援活動を行なっています。私もケ

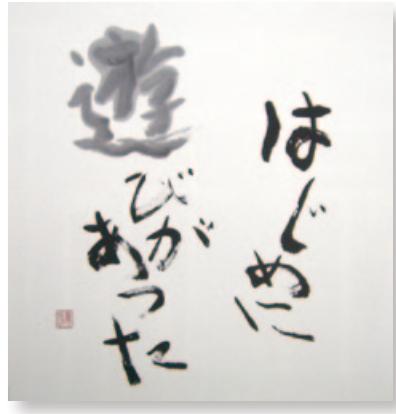
ア・インターナショナル ジャパン*という団体で被災者支援を続けておりまして、被災地へも行く予定ですので、その際には「TEAM SMILE」のバッジも持っていきたくと思います。

矢内:それはありがとうございます。「TEAM SMILE」では、渋谷の街の活性化を目的に行なわれるイベント「渋谷パラダイス」にて、渋谷ハチ公前に特設ステージを設け、被災地支援のミニコンサートも開催しています。主にこれからの音楽界を担う若いアーティストの方たちに出演してもらっていますが、渡辺プロダクションさんも渋谷に移転されましたし、こうしたイベントでもぜひ何らかの形で一緒にできればと思います。

渡邊:はい、ぜひ一緒にしたいですね。ぴあさんも渡辺プロダクションも、同じ「遊び」という部分で繋がっていますし、これからもいい付き合いができればと思っています。

矢内:本日は本当にありがとうございます。

*世界70ヶ国以上で人道支援活動を行なう国際協力NGO「CARE」の日本事務局。



渡邊美佐会長による書「はじめに遊びがあった」

「Jリーグオフィシャルチケットングパートナー」契約に基本合意

「Jリーグチケット」開設

Jリーグのさらなる発展、ファン・サポーターのより一層の拡大を目指し、昨年12月、公益社団法人日本プロサッカーリーグと「Jリーグオフィシャルチケットングパートナー」契約に基本合意。同取り組みの一環として、今年3月には、ぴあのチケットングシステムをASP提供し、J1・J2リーグ戦、Jリーグ主催試合等のチケットをお求めいただける、Jリーグ公式ホームページのチケット販売サイト「Jリーグチケット」を開設。1993年のJリーグ開幕当初よりチケット販売を通じて各種サポートを行ってきた実績やノウハウを活かし、業界の活性化に向けたソリューションビジネスを展開しています。



©J.League Photos

情報誌「ぴあ」がネット版に進化 「ぴあ+ (plus)」スタート

昨年7月に休刊した情報誌「ぴあ」のネット版がスタートしました。その第一弾として、12月には、「ぴあ」の「映画欄」に特化した電子書籍型のサービス「ぴあ+ (plus)」を開設(PC・スマートフォン・タブレットに対応)。同サイトはカレンダー形式の映画館上映スケジュール情報をメインに、各種映画情報を網羅。インターネットの特徴である速報性・機能性、そして紙媒体の特徴である網羅性・一覧性を兼ね備えたサービスを実現しました。時代とともに変化するデバイスの特性に合わせ最適な形で、エンタテインメントファンの皆様にぴあにしか実現できない情報・サービスの提供を行なっています。



ライブ・エンタテインメント関連事業の売上が過去最高値を記録

チケット販売売上が期初想定を大きく上回り、ライブ・エンタテインメント関連事業の売上が過去最高値を記録しました(対前年同期比111.3%)。震災直後はイベントの中止・延期が相次いだものの比較的早期に回復し、震災後のチャリティイベントの増加、昨年11月に開催した情報誌「ぴあ」の休刊ライブイベント、またMr.Children、浜崎あゆみ、東方神起といった音楽ジャンルの人気アーティストの大規模公演が相次ぎ、チケット販売売上の拡大に大きく貢献しました。



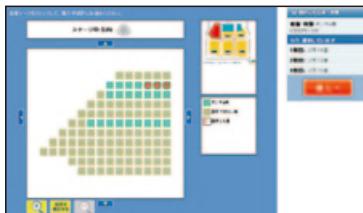
「ぴあ39th FAREWELL "39-THANK YOU." ~車輪小僧の大回転~」

7&iグループ限定販売の企画チケットを続々発売

7&iグループの特性や店舗網を活かし、各種企画チケットを販売しています。セブン-イレブンでは、浦和レッズ主催のJ1リーグ戦等でチケット先行販売を実施し、また「エジプト考古学博物館所蔵 ツタンカーメン展～黄金の秘宝と少年王の真実～」(東京開催分)にてチケットを割引価格でお求めいただける「特割チケット」を限定発売。その他、タワーレコード渋谷店等のチケットぴあ店舗では「ROCKS TOKYO」(ぴあ等主催)等の春フェス・イベントのチケット購入者に特典が付与されるキャンペーンを実施しご好評いただきました。

ぴあ会員が1,000万人を突破

「チケットぴあ」のWebサイトを利用する際にご登録いただいている「ぴあ会員」が、今年5月をもちまして1,000万人を突破いたしました。2003年のサービス開始から約9年を経過した現在でも依然増加傾向を辿っており、インターネットでのチケット販売も順調に拡大しています。また、昨年未より同サイトにて本格スタートした「座席選択購入サービス」も現在では200公演以上に導入されるなど、会員の皆様にとってより利便性の高いサービスの提供に努めています。



「座席選択購入」画面

話題の施設「東京スカイツリー®」個人向け入場券のインターネット販売を受託

今年5月にオープンした、地上634メートルのタワーとして世界一の高さを誇る自立式電波塔「東京スカイツリー」。東京の新名所として注目を集める同施設のインターネットによる個人向け入場券の販売業務を当社が受託しました。ぴあのチケットングシステムをASP提供し、チケット販売サイト「『東京スカイツリー Webチケット』 powered by ぴあ」を開設。Web API サービスを活用しカレンダー形式にて残席状況をリアルタイムで表示するなど、利便性の高いサービスを提供しています。主催者側のニーズに合わせてシステムをカスタマイズすることで効率的なチケット販売を実現しました。



Web・雑誌・店舗が連動したサービス「ウレぴあ」ネットメディアを強化し、雑誌をモデルチェンジ

昨年10月よりスタートした、“ウレるを実感、ウレしいを共感”をコンセプトにWeb・雑誌・店舗を連動させたサービス「ウレぴあ」。Webサイト「ウレぴあ総研」では、オンラインイベント「注目のご当地アイドル」「あなたが選ぶ春ドラマの主演男優賞」等でユーザーからの投票数が2万票を超えるなど、徐々にその注目度も高まっています。

今般、同サービスのメディアソリューション事業を更に推進すべく、Webサイト「ウレぴあ総研」では最新ニュースやトレンド情報に加え、各種ソーシャルメディアとの連携を強化。また、雑誌「ウレぴあ」はビジュアル・アーカイブ機能を高め、「ウレぴあ総研」により得られた情報をオーソライズする媒体へとリニューアルするなど、インターネット時代の特性に合わせ、双方向型のメディアサービスを構築してまいります。



震災復興プロジェクト「TEAM SMILE」を引き続き展開中

社内の有志からの呼びかけにより発足した震災復興プロジェクト「TEAM SMILE」の活動を継続して行なっています。チケット販売システムを活用した募金受付スキームの提供、イベント等でのフリーマーケット出店による収益の寄付の他、今年のGWに開催された「渋谷パラダイス」では、昨年に続き同プロジェクトに賛同していただいたアーティストによる「ぴあエンタテインメントステージ」を9日間にわたり開催。当社の企業理念である「ひとりひとりが生き生きと」を具現化する取り組みとして、今後も様々な活動を展開してまいります。



「ぴあエンタテインメントステージ」

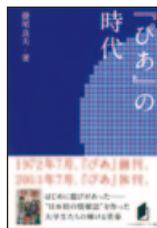
話題のタレントを扱った出版関連商品を続々発売

人気急上昇中のアイドルグループ・ももいろクローバーZの魅力に迫るライブマガジン「ももクロぴあ vol.1」を今年2月に発売。続けて3月には、AKB48の公式ダイアリーを発行、そしてぴあ等が主催したファッション&音楽イベント「HARAJUKU KAWAii!!!!」と連動し、アーティストのきゅりーぱみゅぱみゅ等を特集したムック「HARAJUKU」を発売。話題のタレントやブレイク必至のアイドルを取り上げた新たな商品をタイムリーに企画・刊行しています。



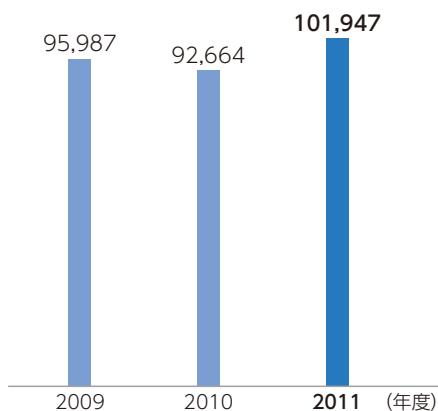
キネマ旬報社より『「ぴあ」の時代』発刊

1919年より続く映画情報誌「キネマ旬報」の元編集長で、現在は同映画研究所所長の掛尾良夫氏執筆によるドキュメント書籍「『ぴあ』の時代」が昨年12月にキネマ旬報社より刊行されました。同書籍では「ぴあ」の創刊からはじまる成長の軌跡が、総勢20名以上の関係者へのインタビューや当時の時代背景とともに克明に綴られています。また、当社代表の矢内を含めた当時の若者たちの情熱や挑戦の数々を描いた青春記としてもお楽しみいただくことができ、各種メディアの書評欄でも数多く取り上げられました。

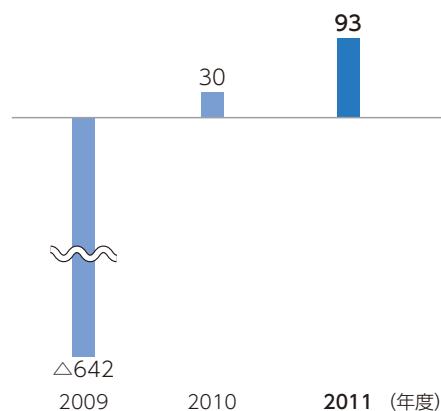


ぴあグループ連結業績

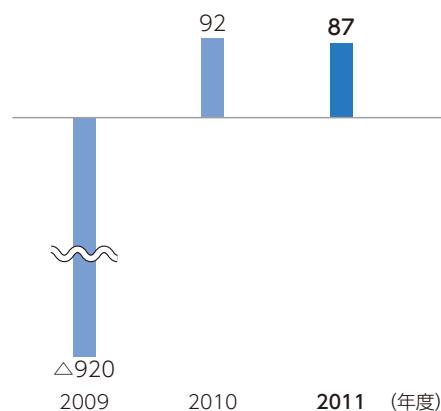
売上高 (単位:百万円)



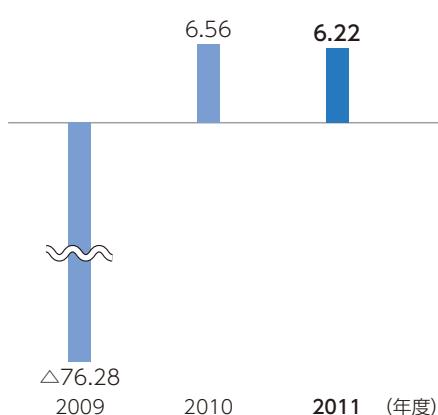
経常利益 (単位:百万円)



当期純利益 (単位:百万円)



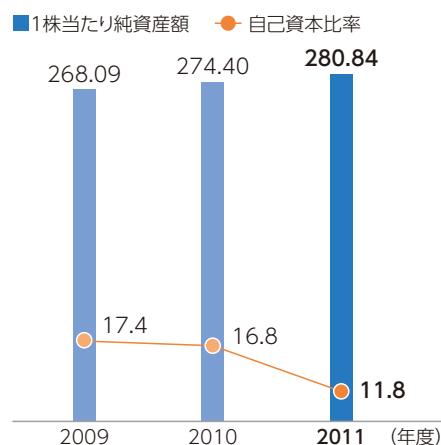
1株当たり当期純利益 (単位:円)



総資産額・純資産額 (単位:百万円)



1株当たり純資産額(単位:円)・自己資本比率(%)



全体概況

ぴあグループの2011年度通期の連結業績は、チケット販売の大幅な伸張に加え、各種構造改革及びコスト削減効果の発現により、震災影響等からメディア・コンテンツ事業が赤字となったものの、過去最高の連結売上高を達成し、2期連続の最終黒字化を実現しております。

その結果、当期業績は当初予想を上回り、連結売上高1,019億47百万円(対前年同期比110.0%)、営業利益86百万円(対前年同期比32百万円増加)、経常利益93百万円(対前年同期比62百万円増加)、当期純利益87百万円(対前年同期比4百万円減少)となりました。

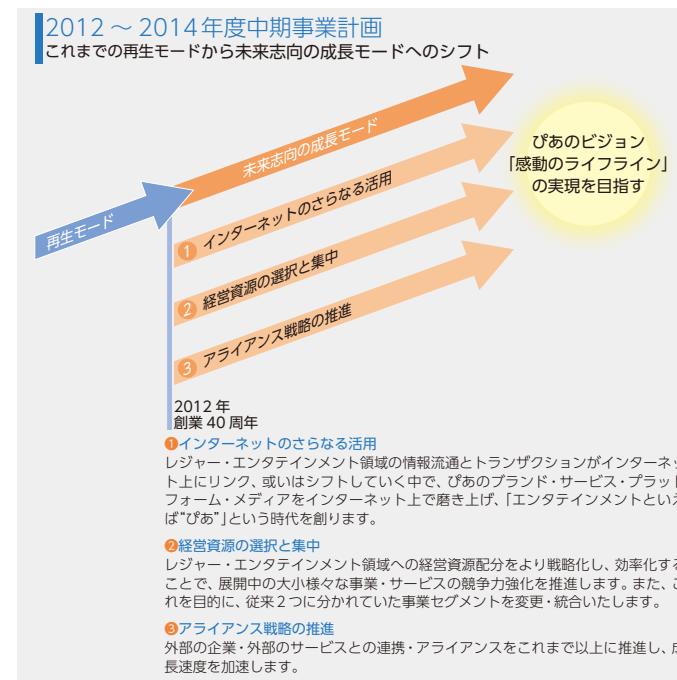
中期事業計画(2012年度～2014年度)

中期事業計画

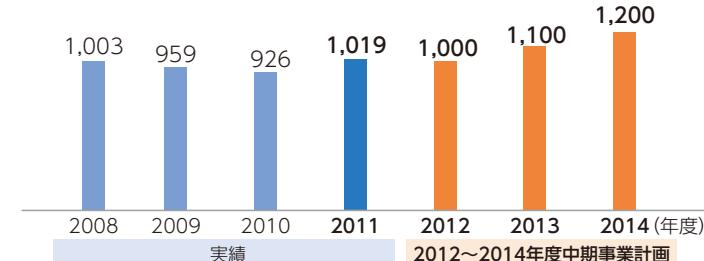
当社グループでは、2008年1月の新チケットシステム移行時の不具合に起因した業績の悪化を受け、大幅なコスト削減を主とする抜本的な事業構造改革を中心とした中期経営計画(2008～2010年度)を策定し、これを基に収益構造の盤石化を推進してまいりました。その後、東日本大震災の影響がありながら、2011年度に2期連続の黒字化を達成したことを踏まえ、創業40周年を迎える2012年度を初年度とする新たな中期事業計画(3カ年)を策定しました。中長期的成長への対応を進めつつ、

連単安定黒字基盤の確立に向け、役員・社員一丸となって経営努力を積み重ねてまいります。

これまでの再生モードから未来志向の成長モードへのシフトを行なうことを目的とした中期事業計画(2012～2014年度)では、①インターネットのさらなる活用、②経営資源の選択と集中、③アライアンス戦略の推進、の3つの事業展開を積み重ねることによって、当社グループのビジョン「感動のライフライン」の実現を目指してまいります。



売上高※連結ベース (単位:億円)



当期純利益※連結ベース (単位:億円)



次期の見通し

2012年度より上記の中期事業計画を開始し、その初年度となる次期は、利益成長の実現をテーマに掲げ、利益倍増を目指します。その結果、2012年度の通期業績見通しといたしましては、連結ベースで売上高1,000億円、営業利益200百万円、経常利益170百万円、当期純利益150百万円を見込んでおります。

2012年度連結業績予想 (単位:百万円)

	上期		通期	
	2011年度実績	2012年度上期予想	2011年度実績	2012年度通期予想
売上高	47,938	45,000	101,947	100,000
営業利益	△104	△350	86	200
経常利益	△118	△360	93	170
当期純利益	△130	△400	87	150

連結財務諸表

連結貸借対照表

					(単位:百万円)				
科目		2010年度 (2011年3月31日現在)	2011年度 (2012年3月31日現在)	科目		2010年度 (2011年3月31日現在)	2011年度 (2012年3月31日現在)		
資産の部				負債の部					
I	流動資産	18,313	30,029	I	流動負債	17,879	27,870		
	現金及び預金	9,496	15,857		買掛金	14,507	23,450		
	受取手形及び売掛金	7,965	13,021		短期借入金	200	400		
	商品及び製品	74	89		1年内返済予定の長期借入金	788	782		
	その他の流動資産	778	1,062		その他の流動負債	2,384	3,238		
II	固定資産	4,660	3,360	II	固定負債	1,195	1,526		
	有形固定資産	339	279		長期借入金	620	945		
	無形固定資産	3,191	1,923		その他の固定負債	575	581		
	ソフトウェア	3,075	1,807		負債合計	19,074	29,396		
	その他	116	116						
	投資その他の資産	1,129	1,157		純資産の部				
	資産合計	22,974	33,389		純資産合計	3,900	3,992		
					負債純資産合計	22,974	33,389		

連結損益計算書

			(単位:百万円)		
科目		2010年度 (2010年4月1日～ 2011年3月31日)	2011年度 (2011年4月1日～ 2012年3月31日)		
	売上高	92,664	101,947		
	売上原価	84,749	93,463		
	売上総利益	7,915	8,484		
	販売費及び一般管理費	7,860	8,397		
	営業利益	54	86		
	経常利益	30	93		
	当期純利益	92	87		

連結株主資本等変動計算書

										(単位:百万円)				
科目	株主資本				その他の包括利益累計額				少数株主 持分	純資産 合計				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の包括 利益累計額合計						
2011年4月1日 残高	4,239	402	△ 697	△ 61	3,882	1	△ 23	△ 21	39	3,900				
連結会計年度中の変動額														
当期純利益			87		87					87				
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						3	△ 0	2	1	4				
連結会計年度中の変動額合計	-	-	87	-	87	3	△ 0	2	1	92				
2012年3月31日 残高	4,239	402	△ 610	△ 61	3,970	4	△ 23	△ 18	41	3,992				

会社概要 (2012年3月31日現在)

商号	ぴあ株式会社 (PIA CORPORATION)
本店所在地	東京都渋谷区東1-2-20 渋谷ファーストタワー
設立	1974年12月
資本金	4,239,158千円
発行済株式総数	14,092,913株
社員数(連結)	252名
会計監査人	有限責任監査法人トーマツ

役員(2012年6月23日現在)

代表取締役社長 (CEO)	矢内 廣
取締役	林 和男
取締役	白井 衛
取締役 (COO)	唐沢 徹
取締役	木本 敬巳
取締役	夏野 剛
取締役(社外)	佐久間 昇二
取締役(社外)	富山 和彦
取締役(社外)	後藤 克弘
常勤監査役	能勢 正幸
監査役	斎藤 廣一
監査役(社外)	松田 政行
監査役(社外)	新井 誠

主要グループ会社

ぴあデジタルコミュニケーションズ株式会社

所 在 地/〒150-0011 東京都渋谷区東1-2-20 渋谷ファーストタワー
事業内容/コンテンツメディア(紙媒体・Web・モバイル)の企画・開発・販売・コンサルティング及び各種プロモーションの企画・開発業務

チケットぴあ九州株式会社

所 在 地/〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神3-15-24 三天第一ビル5F
事業内容/九州地区におけるコンピュータチケットイングサービス事業

株式会社東京音協

所 在 地/〒150-0011 東京都渋谷区東1-2-20 渋谷ファーストタワー
事業内容/音楽・演劇・スポーツ・映画・その他イベントの開催、チケット販売並びに情報提供

チケットぴあ名古屋株式会社

所 在 地/〒461-0005 愛知県名古屋市中区東桜2-13-32 ぴあ名古屋ビル
事業内容/中部地区におけるコンピュータチケットイングサービス事業

株式の状況 (2012年3月31日現在)

発行可能株式総数	33,000,000株
発行済株式総数	14,092,913株
株主数	24,669名

主な株主		
株主名	所有株数(株)	持株比率(%)
矢内 廣	2,900,100	20.58
株式会社セブン&アイ・ホールディングス	1,409,400	10.00
凸版印刷株式会社	1,087,709	7.72
株式会社セブン&アイ・ネットメディア	704,700	5.00
株式会社セブン-イレブン・ジャパン	704,700	5.00
林 和男	510,800	3.62
株式会社経営共創基盤	481,800	3.42
斎藤 廣一	481,100	3.41
株式会社ピー・エス	408,800	2.90
矢内アセットマネジメント株式会社	359,000	2.55



ぴあ株式会社

〒150-0011 東京都渋谷区東1-2-20 渋谷ファーストタワー
TEL (03) 5774-5200 (大代表)
http://www.pia.co.jp/pia

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
配当受領株主確定日	毎年3月31日 (中間配当を実施するときの株主確定日は、9月30日です)
公告方法	電子公告 <URL> http://www.pia.co.jp/pia (ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞にて行ないます。)
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 〒183-8701 郵便物送付先 東京都府中市日鋼町1番10 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合せ先	電話 0120-176-417
インターネット ホームページURL	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
特別口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社 本店 証券代行部
事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 〒168-8507 郵便物送付先 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合せ先	電話 0120-288-324
単元株式数	100株

※住所変更等の事務手続きは、お取引の証券会社等にてお手続き下さい。

株主優待制度について

2012年3月31日現在の株主の皆様に対し、株主優待を実施しています。

1. 優待品目と事前選択

チケットぴあギフトカード、オリジナル図書カード、オリジナルシネマギフトカードの3品目。

下記優待金額の範囲内で、自由に組み合わせて事前選択していただくことができます。



2. 優待区分

株式保有期間 期末保有株式数	2期以上(1年超) 継続保有の場合	保有期間が 左記に満たない場合
100株以上1,000株未満	5,000円分	2,500円分
1,000株以上	11,000円分	5,500円分



JOC オフィシャル
チケット管理マネジメント

ぴあはJOCオフィシャルチケット管理マネジメントとして、日本選手を応援しています。